



佐渡では佐渡金銀山をはじめとする歴史文化や豊かな自然、景観を活かし、全国的な観光戦略を展開しており、特に島の主たる玄関口となっている両津港周辺では、鬼太鼓など観光資源と宿泊施設の集積が見られ、対岸の新潟市でも花街文化をはじめとする「みなとまち文化」を活かした観光政策を推進している。

このような背景を踏まえ、平成20年には新潟市・佐渡市誘客連携協定を締結、その後「トキめき佐渡・にいがた観光圏」として国土交通省に認定され、互いに連携しながら官民を挙げた取り組みが進んでいる。

両市は豊かな環境によって育まれた「食」と「歴史文化」という共通の強みを持っており、互いのみなとを核としたまちづくりによって圏域全体を盛り上げ、「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録という悲願達成のため新潟市としても支援していきたい。

\*:

## 2 トピック

\*:

●世界最大級のコンテナ船「MSC ISABELLA」が横浜港南本牧ふ頭に入港しました！！

(関東地方整備局 港湾空港部)

世界最大級のコンテナ船である「MSC ISABELLA」(全長約400m、船幅61m、最大積載数23,656TEU)が、3月14日(日)に、横浜港南本牧ふ頭MC3・4に入港しました。

横浜港南本牧ふ頭MC3・4は、国内最大水深18mの規模を誇り、コンテナ取扱機能を飛躍的に向上させ、今後、世界最大級のコンテナ船が継続的に入港する事で、我が国の国際競争力の強化につながります。

また、4月1日(木)からはMC4の本格供用を開始しました。これにより、MC1～4は水深16～18m、総延長1,600mのコンテナターミナルとして、施設全体の一体利用が可能となります。今後、多方面の航路の船舶が船型やスケジュールに応じて、施設全体を柔軟に利用できる画期的な運用が実現することで、高規格な施設能力を最大限に発揮できるようになります。

関東地方整備局では、これからも横浜港を国際コンテナ戦略港湾として、ソフト・ハードの機能強化を進めていきます。



横浜港南本牧ふ頭地区の位置図



MSC ISABELLA入港の様子（令和3年3月14日撮影）



着岸したMSC ISABELLAの様子（令和3年3月14日撮影）

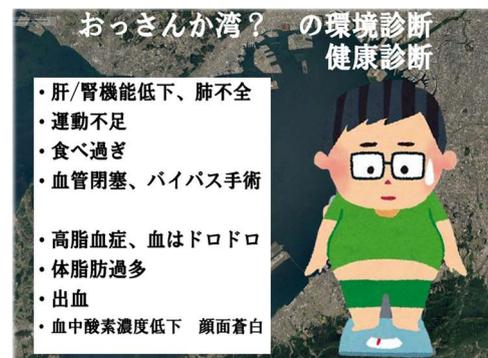
### ●第1回 神戸海域の環境に関する勉強会を開催しました

（近畿地方整備局 神戸港湾事務所）

近畿地方整備局神戸港湾事務所では、神戸港における港湾整備事業を円滑に推進するため、神戸港及び周辺海域における水底質環境の保全・再生・創出とともに海生生物との共生にも資する港湾整備について有識者、地元関係者を交えて検討を進めているところです。

こうした中、検討会(WG)の委員として参加をして頂いている徳島大学環境防災研究センター中西敬先生にご協力をいただき、神戸海域で操業する若手漁業者と神戸港で港湾整備事業に携わっている若手職員が、神戸海域の環境の変遷・現状と新たな課題について一緒に学ぶ場として、3月19日(金)神戸築港資料館 ピアしっくす において、第1回 神戸海域の環境に関する勉強会を漁業関係者21名、神戸港湾事務所など関係者15名の参加で開催しました。

中西先生の講義では、大阪湾が三大湾の中で浅場が最も少ないことや、大阪湾の状態を、栄養過多でメタボだったおっさんが食事制限だけでダイエットした不健康な状態に例えて、「おっさん化湾」と表現するなど、ユーモアを交えながら解説して頂きました。また、環境調査の内容と目的必要性や、不健康な状態を改善する環境(浅場のアサリ、海草)の必要性を問題形式で解説されました。



参加した漁業者からは「神戸海域で唯一の浅場となっている塩屋海岸で何か出来ないか。」「これまでの埋立で潮流が悪くなったことは仕方がないが、これからは何か良い手立てがないのか。」「六甲アイランド南地区埋立護岸で使用する環境配慮型ブロックとはどのようなものなのか。」など多数の質問があり、当初予定を2時間を予定していた勉強会も活発な議論により45分も超過してしまいました。

中西先生からは「港湾整備事業を推進する立場の職員と漁業者が一緒になって勉強をしている事例は聞いたことがない。」と、とても貴重な機会なのでしっかりと学んでもらいたい。と参加者に呼びかけていました。

次回以降、年間3回程度定期的を開催することを参加者全員で確認し第1回勉強会は終了しました。

